

第4回 学校運営協議会 記録

日時	令和8年1月14日（水）	会場	美香保小学校 4階ランチルーム
司会	山本（美香保中学校 教頭）	記録	澤本（美香保中学校 主幹教諭）
出席者	伊達、高屋敷、橋本、棚瀬、小山、守本、水口、齋藤、大坂、森野、渡部、藤原 杉本、渋谷江		
欠席者	和泉、北、富樫、渋谷一		

【1】会長挨拶

【2】教育課程柔軟化サキドリ研究校事業への申請について（伊達）

令和8年度に向けて、美香保中学校区パートナー校として文科に申請した標記の事業について、添付資料に基づいて説明。

Q1. 本事業を子どもたちに説明する必要があるのではないか？

A1. どのような目的でどのように行うのかを説明することは極めて重要である。子どもたちに説明するのはもちろん、保護者に対しても説明会を実施する予定である。

Q2. 本事業を活用して小学校で教科担任制を導入することを検討しているか？

A2. 本事業と教科担任制を結び付けることができるかどうかは、事業を推進しながら検討していく。

Q3. 働き方改革のための事業と受け取られる可能性がある。伝え方が重要ではないか？

A3. 本事業の目的はあくまでも子どもの学びや成長につなげることである。本事業を通して子どもたちにどのような力を身に付けさせるのか、そのためにどのような教育活動を行うのかを丁寧に伝えていくことが必要である。

Q4. 各教科において時間を生み出すというのはどういうことか？学習内容を削るということか？

A4. 学習内容を削るものではない。学習指導要領に示されている学習内容は確実に履修する必要がある。単元ごとに学習方法の工夫・改善を図ることで時間を生み出していくことになる。

【3】熟議

1. みかほっ子を語る会における内容を踏まえた熟議

テーマ「みかほっ子に育みたい非認知能力」

2. 全体シェア

● Aグループ

・ サキドリ事業によって生み出された時間で、子どもたちにどのような資質や能力をどのように身に付けさせるのか？

以下、山本による回答

- 「生み出された時間」の活用：業務を効率化・圧縮することで生まれた時間を、子どもたちが「触れ合い」や「自ら学ぶ力」を育むための時間として充てたい。
- 社会性と主体性の育成：具体的には、子どもたちが安全な環境で「失敗」や「試行錯誤」を経験できるゆとりを作ることを目指している。
- 「ゆとり」が生む教育効果：例えば、行事などの準備でうまくいかなかった際、時間に追われて教師が先回りするのではなく、子どもたち自身で考え直したり選択したりする時間を保障したい。

- ・ サキドリ事業を推進するにあたり、教員の負担が増えるのではないかと？

以下、伊達による回答

- 目的の優先順位：最優先の目的は「子どもの学びや成長」である。本事業の推進は、その成果として働き方改革にもつながるとの認識を教職員間で共有している。
- 時間の生み出し：業務の効率化や教育活動の工夫改善を通じて、子どもと教職員の双方に「余白（ゆとり）」を創出する。
- 期待される効果：生まれた時間を活用して、子どもたちが安全に失敗し、試行錯誤できる環境を整えることで、「主体性」や「自ら学ぶ力」などの育成を図る。
- 組織的な連携：本事業は開始時点から完璧を目指すのではなく、実施しながら考え、充実させていくことを基本とする。新たな取り組みには初期負担が伴うが、長期的な視点ではその負担が将来の負担軽減につながる。

● B グループ

- ・ 子どもの声を聴く時間の確保：学校が大きく変化する中で子どもの負担を考慮し、子どもが大人に相談したり声を届けたりできる時間を増やす重要性が共有された。
- ・ 子どもの主体性を認める姿勢：子どもが自ら声を上げられるよう、周囲の大人が子どもの存在や意見をしっかりと認めていく必要性が議論された。
- ・ 変化に対する説明と理解：学校の変化について保護者から様々な質問や懸念が出ることが予想されるため、教職員自身が内容を深く理解し、適切に説明できる準備が不可欠である。

● C グループ

- ・ 子どもたちが自ら選択する時間の尊重：教師が設定した枠組みで動くのではなく、子どもたちが「今日はこれをやりたい」と主体的に選べる時間を大切にしたいという意見が出された。
- ・ 「何もしない時間」の価値：常に活動を詰め込むのではなく、あえて「何もしない」時間や、子どもたちが自由に過ごせる「余白」を作ることの重要性が議論された。
- ・ 教師の役割の変化：教師が指示を出す役割から一歩引き、子どもたちのやりたいことを尊重して見守る姿勢や、そのための環境づくりについて共有された。

【4】学校運営協議会委員の令和8年度に向けた意思確認について

- ・ 規約では任期は1年（年度）となっている。
- ・ 熟議は回を重ねるごとに成長しており、現職の方には次年度も継続して担当いただくことが、みかほっ子にとって有益と考える。ぜひ次年度もお願いしたい。
→その場で意思確認書に記入・提出いただいた。
- ・ 委員に欠員が生じた場合の新たな人選については、事務局に一任する。
→承認